

# えんちょう通信

No. 5 0

令和 3 年 9 月 1 3 日

福島市立清水幼稚園

発行者 佐藤 一男

「ぶどうって、あんなにおいしいんだね」



9月10日(金)、子どもたちが楽しみにしていたぶどう狩りに出かけました。久しぶりに晴れて、気持ちのいい朝です。

「僕、イチゴ狩りには行ったことあるけど、ぶどう狩りは、はじめてだな。楽しみだな。」  
「お母さんに、大きなぶどう、持って帰るんだ。」

子どもたちは、もうぶどうのことで頭がいっぱいです。足取りもついつい速くなります。

幼稚園を出発して、白洗舎の前を西に曲がって、清水支所の駐車場を抜けると、山岸さんのぶどう畑が広がっています。白い袋をかけたぶどうの房がたくさん見えます。

山岸幸一さん、由美子さんご夫妻が、ぶどう狩りをするハサミや踏み台、とったぶどうを入れる袋などを用意して待っていてくださいました。山岸さんからぶどうのとり方を教えてもらい、さっそくぶどう狩りを始めました。ぶどうは少し白い粉がふいていてとても甘そうです。ひとつの房に30粒くらいぶどうがついていますから、子どもたちの手だけではとても持てません。先生に手伝ってもらい、ハサミで「パチン」と切りました。ぶどうはずっしりと重たくて、落としそうになる子もいます。とったぶどうは、山岸さんが袋に入れてくださいます。それはリュックに入れて、お土産に持ち帰ります。

そのあと山岸さんが「種があるから、気をつけて食べるんだよ。」とぶどうを子どもたちの手に分けてくださいました。人差し指と親指で丁寧に皮をむいて、パクリと食べます。

女の子が「ぶどうってあんなにおいしいんだね。」と後で引率の先生に言ったそうです。その子は、そのぶどうの味をずっと忘れないだろうと思います。

知らなかったことが分かったり、見たことのない景色を見たりするのは誰でも本当に楽しいものです。ワクワクしてきます。そのようなワクワク感を体験した子は、また新しいことを知りたくて仕方がなくなります。そして自分から興味関心の世界を広げ、どんどん「学んでいく」ようになると言われています。

10月には、電車に乗って県立美術館に「THE ドラえもん展」を見に行きます。